



▲ズームレンズは端付きでカメラマンは安心して操作できる。AF/MF、無限遠の切り替えスイッチもわかりやすい。

▶マイクと音声設定部がハンドル前方に集中。音声レベルのダイヤルは不用意に回らない構造になっている。



◀記録メディアは汎用性のあるSDカード。2スロットあり、ひとつはRECトリガー連動、もう一つはベタ録りというバックアップ記録にも対応している。プライダルなど失敗が許されないイベントビデオグラファーの声を取り入れた。ドキュメンタリーでも逆トリーはやりがちなので、カメラマンにとって嬉しい機能だ。



JVC GY-HM600/650の可能性

ユーザーの声に応じてファームアップしていくカメラ



業務レンジのユーザーが求める機能とスペックを搭載し注目を浴びているカメラレコーダーがJVCのHM600/650。昨年末から発売が開始され、すでに2回もファームアップされているという。新しい機能も加わっているようだ。その辺りを中心に齊藤カメラマンがJVCの開発陣に迫った。

聞き手◎齊藤正広



海外取材の仕事が多いビデオカメラマン。ハンドヘルドタイプのカメラを使うことも多い。画質を見る目には定評がある。シビアナ目を持つ一方で、機材の実力を引き出して使いこなすのがプロのカメラマンだというのが持論。

——23倍ズームレンズやデュアルコーデック、ネットワーク機能など、HM600/650は大変意欲的なカメラだと思えますが、企画コンセプトから教えてください。

「JVCでは1/3インチのコンパクトシヨルダタイプからシリコンメディアに移行しました。もうひとつの路線として小型軽量のHM150というカメラがあります。この二路線の間に新たなモデルを追加することになりました。新規開発するにあたっては、レンズの倍率、コーデック、ファイルフォーマットのすべてにおいて業界ト

ップを狙おうと考えました。光学系は最高倍率を目指すと同時にカメラ本体もクラス最軽量を目指しました。そしてとにかく1/3インチで究極に明るいカメラを作るという目標を立てました」

——ユーザーの声はどう取り入れていったのですか？

「やはりお客様の声が一番大切ですので、開発段階から先行機種をベースにこれからのカメラレコーダーに求める機能を訊いていきました。モックアップの段階で多くの放送局の方々やプロシヨップにヒアリングし、それを受けて仕様を変更した部分もかなりあります。

ようにしました。実は当初は拡張モード相当がデフォルトでマイナス6dBも設定できたのですが、多くの人は0dBを基準で使われるし、そうするとNDを入れても絞りができないこともありました。それでモードを分けようということ、標準モードと拡張モードを作りました。現状は感度が異なる(拡張の0dBは標準の6dB相当)ですが、今後はモードによってNRのかけ方を変えるなどのチューニングも検討しています。

——画の調子は、他のメーカーとは違う、暖かくて柔らかい、以前の色のトーンが気に入って実際に以前HD100も購入したのでですが、画作りについて意識している部分はありますか？

「色に関しては、従来機種から変



▲お話を聞いたのはJVCケンウッド ビジネス・ソリューション事業部の木戸武氏、塚田幸司氏、後町修氏、浅井浩氏(写真右から)。

実はこのカメラはソフトウェア志向で作られているので、現在の状況を見据えて、ファイルの部分ではいろいろなファイルフォーマット(AVCHD、MXF、MP4、MOV)に対応させました」

——MPEG2系とH.264系の2種類のコーデックを積んでいるカメラというのは他社にないと思いますが、それはどうして可能なのでしょうか？

「ファルコンブリッドというJVC開発のチップをベースにソフトウェア志向で作られているからです。このチップにはMPEG2とH.264、モーションJPEGの3つのコーデックが入っています。あとはソフトウェアの制御でそのコーデックをどういうファイル形式で使うかということを決めることができます。それで今回新たにAVCHDにも対応できたわけです。さらにアップグレードすることで機能を追加したり、改善することが可能です。アップグレード自体も、JVCのホームページからアップグレードのファイルをダウンロードして、それをSDカードに入れ、それを本体のカードスロ

化がないように合わせこんでいます。まさにHD100の頃に決めたものです。解像感にしてもフラットな周波数特性でありとげとげしくない調子にして、S/Nと解像感のバランスを重視しました。一方で、カラーマトリクスを直感的に変えられるようにしました。これで逆に他社のカメラの色味に合わせこむことも可能です」

——発売以降にファームアップですが？

「はい。弊社ではHMシリーズ発売以来、常にお客様第一で開発をしてまいりました。今回お客様の指摘を受け、開発陣の総力をあげブラッシュアップし、すでに何度かのファームアップでかなり改善しています。実は現在進行形でさらに良くなりつつあるので、近々さらなるバージョンアップをしたいと思っています」

——HM650はUSB端子を利用したWi-Fiアダプターを利用してカメラコントロールが可能だけでなく、ファイルのネットワーク送信ができるのですが、試してみると新鮮で愉しかったです。

「かなりいいですね。Wi-Fiを内蔵しようとしていたのですが、機能が限定されてしまいます。そこでUSBホスト機能を採用しました。対応するアダプターはサイトで案内していますが、今後は3G/4G含めて使えるものを増やしていきたい、どこでもつながるようにインフラを強化していきます。またセキュリティの強化も考えています。さらにカメラコントロールが専用のリモートコントローラーやiPadなどからもできるので、教育機関等で簡易的なスタジオ構築ができるようになります。またライブストリーミング機能も追加する予定です」

——今回のHM650に採用されたH.264の35Mbpsに注目してテストしてみたのですが、ひじょうに優れていました。これをもっとアピールしたほうがいいし、HM600にも採用してほしいと思います。さらにビットレートを上げることは可能ですか？

「要望があれば、ビットレートを上げることは可能です。ただSDHCのクラス6以上を推奨していますので、35Mbpsくらいが安心して使えるところだと思っています」

——さて、肝心の映像のほうですが、明るさが特徴的ですね。感度が2000ルクスでF11というのは、実際に私も試してみました。1/3インチとして驚くべきスペックです。

「とにかく明るいカメラを目指しました。ただ、晴天下の屋外撮影の場合、明るすぎて使いにくいと言われることもありましたが、0dBの感度の基準が異なる標準モードと拡張モードを選択できる

